

あかりさんの卒論書がなくっちゃ〈7月編〉

〈ここまでのあらすじ〉

あかりさんは、参考文献リストに載っている論文の探し方が分からないので、図書館へやってきました。

文献発表の時に雑誌の場所を教えてくれた山本さんがカウンターに座っていたので、聞いてみることにしました。

(前回の内容は[ここ](#)でチェック!)

「ここに載っている論文を読みたいんですけど、どうすればいいですか？」

山本さんはざっと目を通し、

「参考文献ですね。見方は分かりますか？」

「いえ、まったくわかりません」

「じゃあ、簡単に説明しますね。このリストには雑誌の論文と本の論文の両方がのってますから、それぞれ1つずつ見てみましょう。

まず、雑誌の論文ですが、リストの1番のような形でよく出てきますね」

原奈津子・山本真理子 (1995) 説得における肯定的感情および否定的感情の影響 筑波大学心理学研究, 17, 143-151.

「順に論文の著者、出版年、論文名、掲載された雑誌の名前、巻号、掲載ページとなっています。探すときは、掲載された雑誌の名前で検索することになります。本と同じように、ホームページの“学内蔵書検索”から探せますよ」

「これだったら“筑波大学心理学研究”ってことですか」

「そうです。論文名や著者名で検索しても出てこないの、注意してくださいね」

なるほど。何となく分かったような、でもまだ気になることが。

「この“17”みたいな巻号っていうのは検索するとき入れなくてもいいんですか」

「検索するときには入れないでください。実際にやってみましょう」

山本さんはホームページの“学内蔵書検索”のところに、「筑波大学心理学研究」と入力して検索ボタンをクリックしました。

「検索結果一覧」という画面に、筑波大学心理学研究が出てきました。

ここまでは本を検索するときと同じで、見慣れた画面です。

山本さんが雑誌の名前をクリックすると、「目録情報」という画面が出てきました。本を検索するときはこの画面の「所蔵」というところに書いてある場所とか請求記号をメモして探しに行けばいいんだけど、あれれ？

「所蔵」のところにはこんな風に書いてありました。

所在：本館書庫・雑誌架

所蔵年：1984-2006

所蔵巻号：6-20,22-31+

本の時とちょっと違います。山本さんが説明してくれました。

「雑誌は、本と違って探している巻号が重要になってきます。せっかく雑誌があっても、探している巻号がなかったら意味ないですもんね。だから、“所蔵”のところには図書館においてある巻号とその出版年を書いてあるんです。さっき気にされていた17巻があるかどうかは、ここで確認してください」

「どうやって確認したらいいんですか」

「所蔵巻号の6-20というのは、6巻から20巻までは全部揃っているということです。だから17巻もありますね。

次にカンマがきて22-31となっていますので、その間の21巻はぬけているということになります。

31の後ろに+がついていますが、これは今後も続けて雑誌が来るということです」

「たくさんあるのに、所蔵年のところは2つしか書いてないのはどうしてですか」

「所蔵年には、最初と最後の出版年だけを書いています。なので6巻が1984年に、31巻が2006年に出版されたということになりますね」

なるほどなるほど。所在は本館書庫・雑誌架だからさっそく行ってみよう。

「分かりました、ありがとうございます」

「では次に本の論文の場合ですね」

そうだった、そっちも教えてもらわないと。

「本の一部を参考文献に載せる場合、リストの2番のような形でよく出てきます」

池上知子 (1997) 社会的判断と感情 海保博之 (編) 「温かい認知」の心理学 (pp.99-119) 金子書房

「順に論文の著者、出版年、論文名、本の著者や編者、本のタイトル、掲載ページ、出版社 となっています。探すときは、本の著者やタイトルで検索することになります。雑誌の時と同じように論文の著者や論文名では出てきません」

「じゃあ“海保博之”とか“『温かい認知』の心理学”とかで検索するってことですか」

「そうですそうです。後はいつものように蔵書検索をしてください」